

一般財団法人 明石コミュニティ創造協会 2020 年度事業報告書

2020 年度 総括

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた 1 年でした。ウィズあかしの貸室稼働率は 2019 年度と比較すると 15.5 ポイント減という結果で、感染対策を行いながらの運営となりました。特に収入の大きい子午線ホールは大きな影響を受け、稼働率は 3 割を切る結果となっています。そのため、貸室利用料の年間総売上は 2019 年度と比較すると 20,810,185 円減少となり、大きな打撃を受けました。

しかし一方で、事業面においては新たなチャレンジをした 1 年だったと言えます。あかし市民広場市民参画交流イベント受託事業がはじまったこともその一つです。ウィズあかしの運営を通じてつながった市民活動団体をあかし市民広場につなぐことにより、コロナ禍で工夫しながらではありましたが、にぎわいを創出することができました。

また、4 月の緊急事態宣言直後、オンラインのニーズが高まったことへの支援として ZOOM の体験機会を提供したことも当法人ならではの動きだったと言えます。この ZOOM 体験会は 10 月まで 24 回開催し、延べ 646 名の方が参加しています。シニア世代がたくさん参加してくださったことも特徴的でした。

また、2020 年度はこの ZOOM 体験会を契機に、オンラインに関して様々な取り組みにチャレンジをしました。具体的には講座やセミナーの Youtube 配信やリアルとオンラインのハイブリッドでの開催、市内のブックスポットをあかし市民広場で中継でつなぐことやオンラインコンテンツとして動画編集・制作などがあります。これらはスタッフのスキルアップにつながったのはもちろんのこと、2020 年度下半期からの「あかねが丘学園オンライン環境整備事業」の受託につながりました。

2020 年度で特筆すべきことの一つに中学校コミュニティ・センター（以下、コミセン）の支援が挙げられます。2019 年度から中学校コミセン改革モデル事業として大蔵・錦城コミセン、2020 年度からこれらに加えて朝霧コミセンの 3 つに関わっていましたが、2020 年度下半期から前述の「あかねが丘学園オンライン環境整備事業」の受託により、市内 13 すべての中学校コミセンのオンライン環境整備に関わることになりました。この事業を進めていく中で、オンライン環境の整備はもちろんのこと、このオンライン環境を活用するための新たな高齢者大学の企画として「あかねカレッジライトコース」の準備にも関わりました。このことは 2021 年度からの新たな事業受託につながっています。この「あかねカレッジライトコース」創設やモデルコミセン改革などを通じて市内 13 の中学校コミセンが地域における生涯学習をコーディネートする「学びのハブ」としてより明確に位置づけられたことは大きな成果でありました。

また、これらの中学校コミセンと小学校区ごとの校区まちづくり組織の連携の可能性も見え始めたことも 2020 年度のひとつの成果であったと言えます。校区まちづくり組織の支援は新型コロナウイルス感染症の影響で十分展開できたとは言い難いですが、行事やイベントが中止となった分、組織基盤強化を目指す地域が増えたことで、その支援に注力することができました。2021 年度以降は、中学校コミセンと小学校区のまちづくり組織との連携をさらに発展させていきたいと考えています。

2020 年度の各事業の詳細は以下のとおりです。

I. 公共施設の管理運営事業-複合型交流拠点ウィズあかしの運営-

施設の稼働率は1度目の緊急事態宣言発令に伴い、4月11日から5月22日までの期間、臨時休館としたため大きく減少したが、その後は順調に増加で推移していた。しかし、2度目の緊急事態宣言の発令により、1月13日から2月28日まで、開館時間を20時まで短縮する対応を行った影響もあり、最終的には50.2%と残念ながら前年度より15.5ポイント下回る結果となった。

今年度は新型コロナウイルスの影響が非常に大きく、有料貸室、無料施設、フリースペースのいずれも利用者数は低迷した一方で、貸室移動の緩和措置や、7月1日から芸術文化公演再開緊急支援事業（子午線ホール利用料の50%減免）の実施、非接触式検知器や空気清浄機の購入など、利用者の利用者の利便性向上と、安心してウィズあかしを利用できる施設として対応することができた。

事業面においては新型コロナウイルスによる自粛期間でも活動が継続できるようにと開催した ZOOM 体験会をきっかけに新たな展開が見えた。あかし楽歴史講座等もオンライン配信を開始するなど、来館しなくても関われる可能性が広がった。

なお、1年全体を見ると、新型コロナウイルスの影響で利用者や稼働率は大きく減少したが、臨時休館や閉館時間の繰り上げ時の際は、館内やHPなどにて周知を行ったことで、利用者の混乱や苦情はなく、適切な施設の管理運営に努めることができた。また、アンケート調査では昨年度と同様に顧客満足度は高い評価を得ることができた。

1. 施設の管理運営

(1) 開館日数・来館者数・稼働率等

開館日数	271 日間 (2019 年度 308 日間)	新型コロナウイルスによる1度目の緊急事態宣言発令に伴い、4月11日(土)から5月22日(金)までの期間、臨時休館とした。 また、2度目の緊急事態宣言発令においては、1月13日(水)から2月28日(日)まで、開館時間を20時まで短縮する対応を行った。
来館者数	143,282 名 (2019 年度 265,171 名)	(内訳) 有料施設：84,932 名 (2019 年度 173,992 名) 無料施設：11,980 名 (2019 年度 13,120 名) フリースペース：46,370 名 (2019 年度 78,059 名)
有料施設の稼働率	50.2% (2019 年度 65.7%)	明石市生涯学習センター：47.4% (2019 年度 63.4%) あかし男女共同参画センター：60.0% (2019 年度 73.4%)

(2) 貸室別稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間稼働率
学習室701	R02	24.1	8.3	56.7	63.0	68.6	59.0	67.9	72.0	73.6	54.2	66.0	64.7	61.6
	H31	70.0	71.6	75.6	70.5	71.6	77.3	77.8	81.4	72.9	79.9	88.0	32.7	72.3
	H30	66.7	64.7	73.7	71.8	69.8	82.5	84.0	86.5	62.8	72.9	79.9	78.4	74.5
	H29	63.5	57.9	82.0	99.0	89.3	72.4	75.0	75.0	70.1	71.3	85.4	72.2	76.1
学習室702	R02	44.4	4.2	56.0	60.5	66.7	73.1	75.3	72.0	68.1	54.2	68.1	61.5	63.1
	H31	82.7	70.4	82.1	78.2	75.3	84.0	80.2	83.3	83.3	73.6	86.7	50.0	77.4
	H30	69.2	74.4	91.0	75.6	70.4	81.3	87.2	84.6	71.8	84.7	88.9	79.0	79.8
	H29	30.8	51.3	73.3	95.7	84.9	57.7	75.6	82.1	72.2	69.4	81.9	81.5	71.4
学習室703	R02	61.9	12.5	37.3	39.5	55.1	65.4	60.5	64.0	65.3	54.2	47.8	57.7	53.6
	H31	67.1	61.7	80.8	74.4	71.6	86.7	75.3	79.5	76.4	75.0	80.0	29.5	71.4
	H30	56.5	70.5	82.1	71.8	70.4	79.5	85.9	82.1	74.4	79.2	83.3	74.1	75.8
	H29	61.5	69.2	85.7	94.3	88.9	70.5	69.2	71.8	65.3	76.4	88.9	75.3	76.4
学習室704	R02	28.0	37.5	34.7	54.9	53.8	65.4	64.2	70.0	70.1	59.7	59.0	61.5	56.8
	H31	63.5	59.3	72.4	66.9	58.6	76.0	69.8	78.8	60.6	65.7	73.3	16.7	63.4
	H30	57.9	54.5	80.1	69.9	64.8	78.9	80.1	82.7	66.7	72.9	72.6	69.8	70.9
	H29	60.9	63.5	76.6	55.2	65.0	87.1	76.9	76.9	68.1	64.6	79.2	71.0	70.4
学習室801	R02	33.3	16.7	58.7	66.0	60.3	73.7	65.4	75.3	63.9	58.3	63.6	71.8	63.3
	H31	77.4	67.9	83.3	69.5	76.5	88.0	79.0	87.2	76.4	72.0	85.3	34.0	74.6
	H30	75.3	64.1	84.6	76.9	67.3	88.7	89.1	93.6	76.9	76.1	77.1	82.6	79.4
	H29	71.2	71.7	82.6	67.0	70.0	74.4	76.3	83.3	70.8	68.8	80.6	84.6	75.1
学習室802	R02	40.7	4.2	38.7	48.1	44.9	67.9	63.0	60.0	55.6	54.2	52.2	48.7	51.5
	H31	64.0	65.4	75.6	70.5	58.0	70.7	65.4	83.3	63.9	55.6	78.7	36.4	65.7
	H30	56.4	61.5	65.4	69.2	64.2	75.7	74.4	79.5	75.0	56.4	77.8	61.7	68.1
	H29	17.9	40.3	69.3	64.1	65.4	69.2	53.8	66.7	58.3	55.6	70.8	66.3	58.1
学習室803	R02	37.5	4.2	52.0	51.9	51.3	59.0	67.9	61.3	63.9	58.3	48.6	46.2	54.0
	H31	56.2	55.6	69.2	69.2	72.8	74.7	69.1	82.1	73.6	64.8	74.7	30.8	66.0
	H30	52.6	48.7	62.8	66.7	58.0	65.3	74.4	79.5	65.3	64.1	79.2	70.4	65.6
	H29	60.3	59.5	56.4	61.5	63.8	60.3	64.1	67.9	55.6	50.0	68.1	65.0	61.0
学習室804	R02	40.7	16.7	66.7	72.8	69.2	75.6	75.3	74.7	76.4	69.4	62.5	79.5	69.6
	H31	82.7	88.9	87.2	89.7	74.1	89.3	88.9	88.5	84.7	88.9	86.7	60.3	84.1
	H30	92.3	83.3	93.6	80.8	87.7	85.1	92.3	88.5	84.7	76.9	86.1	90.1	86.8
	H29	89.7	84.6	88.5	91.0	84.0	83.3	87.2	87.2	84.7	90.3	93.1	93.8	88.1
学習室805	R02	40.7	8.3	50.7	56.8	48.7	47.4	64.2	57.3	56.9	56.9	55.6	64.1	54.0
	H31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	H29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
調理実習室	R02	7.4	0.0	5.3	22.2	11.5	9.0	29.6	33.3	16.4	15.3	8.3	19.2	16.3
	H31	21.3	32.1	41.0	39.7	33.8	38.7	53.1	58.4	41.2	26.4	60.0	12.8	38.2
	H30	28.8	30.8	34.6	38.5	29.6	40.3	43.6	50.0	53.6	38.5	48.6	36.3	39.4
	H29	2.6	9.0	10.3	22.7	19.8	14.1	35.9	35.9	22.2	25.7	39.7	35.1	22.8
和室	R02	14.8	4.2	38.7	38.3	39.7	46.2	50.6	50.7	41.7	36.1	31.9	48.7	40.3
	H31	62.7	51.9	62.8	64.1	51.9	69.3	67.9	74.4	56.9	75.0	73.3	32.1	61.7
	H30	48.7	55.1	59.0	55.1	35.8	65.2	74.4	66.7	59.7	61.5	75.0	64.2	60.0
	H29	47.4	50.0	48.0	51.3	44.3	39.7	59.0	64.9	51.4	52.8	61.1	56.3	52.2
子午線ホール	R02	8.3	0.0	2.7	10.1	12.8	28.2	53.3	55.4	41.7	15.3	51.9	33.3	27.2
	H31	50.0	33.3	65.3	67.9	63.0	50.0	68.9	73.1	58.0	48.6	66.7	11.0	54.8
	H30	43.2	51.3	65.8	67.9	54.3	62.9	65.8	71.4	54.4	47.2	49.3	51.9	57.1
	H29	52.6	55.1	46.1	66.7	48.1	33.3	62.8	68.1	55.6	45.8	65.4	43.2	53.6
リハーサルスタジオ	R02	20.8	0.0	13.3	25.9	20.5	28.2	33.3	45.3	34.7	22.2	27.8	23.1	26.4
	H31	39.7	42.0	42.3	41.6	58.0	48.0	55.6	67.9	41.7	54.2	54.7	32.9	48.4
	H30	36.8	50.0	52.6	44.9	43.2	54.2	67.9	64.1	55.6	54.2	45.8	48.1	51.5
	H29	35.9	44.9	48.5	50.0	57.5	41.0	44.9	55.1	55.6	55.6	66.2	54.3	50.8
音楽練習室1	R02	51.9	12.5	42.7	66.7	52.6	48.7	61.7	65.3	56.9	59.7	54.2	61.5	55.6
	H31	70.7	70.4	73.1	69.2	77.8	84.0	84.0	84.6	81.9	86.1	88.0	57.7	77.2
	H30	75.6	70.5	79.5	75.6	77.8	88.9	85.9	88.5	79.2	81.9	69.4	74.1	78.9
	H29	74.4	71.8	80.3	78.2	85.2	91.0	84.6	75.6	80.6	83.3	84.7	81.5	80.9
音楽練習室2	R02	3.7	4.2	20.0	29.6	26.9	30.8	28.4	36.0	22.2	26.4	26.4	35.9	26.8
	H31	46.7	43.2	38.5	43.6	49.4	61.3	65.0	65.4	58.3	54.2	64.0	29.5	51.5
	H30	46.2	34.6	41.0	39.7	60.5	74.6	66.7	56.4	48.6	58.3	50.0	54.3	52.6
	H29	39.7	53.8	54.3	46.2	49.4	38.5	44.9	55.1	51.4	54.2	63.9	44.4	49.7
ウィズあかし 全室平均	R02	29.3	7.6	39.6	49.5	48.1	54.2	58.8	61.7	56.5	48.1	50.6	54.2	50.2
	H31	62.7	59.5	69.5	66.0	64.7	72.9	72.2	78.6	67.2	66.9	76.9	32.4	65.7
	H30	60.4	58.7	70.8	66.1	62.1	74.9	77.9	78.6	66.0	68.5	71.4	68.6	68.7
	H29	57.6	58.1	69.0	64.6	61.0	73.1	76.6	76.7	66.3	66.1	70.2	66.8	67.2

(3) 修繕・保守・点検等

① 修繕

センター設置から十数年が経過し、各種設備の老朽化が進んでいる。故障したトイレのセンサーや配管、蛍光灯など、設置から 20 年経過し老朽化した設備を適切に行い、トラブルの未然防止や館を適切に運営するための修繕を行った。また、点検時に異常が認められた箇所や、故障した際に施設の運営に多大な影響を及ぼす老朽化設備をまとめ、明石市に報告及び修繕の提案を行った。

② 保守・点検等

各設備の定期的な点検を実施し、必要に応じて修繕した。

点検日	点検内容	点検業者
4 月 13 日	吸収式冷温水器冷暖房切り替え及び定期点検	日本都市管理
4 月 18 日	冷却塔清掃／冷却塔ファン・ファンベルト点検整備	日本都市管理
4 月 22 日	館内 A V システム・市当確機材保守点検	大阪共立
5 月 13 日	中央監視設備点検	パナソニック L S エンジニアリング
5 月 22 日	ホール舞台吊も装置保守点検	大阪共立
5 月 25・26 日	空調用自動制御保守点検	日本都市管理
6 月 22 日	ばい煙測定	日本都市管理
6 月 23 日	A H U プレフィルター洗浄	日本都市管理
7 月 8 日～30 日	PAC フィルター洗浄	日本都市管理
9 月 28 日	AHU 点検清掃	日本都市管理
10 月 7・8 日	ホール調光設備保守点検	株式会社 大阪共立
10 月 28 日	ホール舞台吊物装置保守点検	株式会社 大阪共立
10 月 30 日	AHU プレフィルター交換	株式会社 日本都市管理
10 月 30 日	AHU 高性能フィルター交換廃棄	株式会社 日本都市管理
11 月 30 日	空調用自動制御保守点検	株式会社 日本都市管理
1 月 12 日～27 日	PAC フィルター洗浄	日本都市管理
2 月 12 日	舞台吊物装置保守点検	大阪共立
2 月 22 日	AHU プレフィルター洗浄	日本都市管理

(4) 無料施設の運営

① ブース・フリースペースの運営

市民活動団体の主体的な活動を支援するために 2017 年 4 月からグループ活動スペース（ブースおく・てまえ）とフリースペースを設置し、2019 年からは新たに活動スペース A・B を設置した。グループ活動スペースは団体内の打ち合わせに使用できるようにしており、フリースペースはイベント実施や展示など、活動の PR ができる。新設の活動スペース A・B は両方の使い方ができる活動の場として有効に利用されている。

2020 年は新型コロナ感染拡大予防のため、4 月 15 日から 5 月 22 日の期間フリースペースとラウンジの利用を禁止したこともあり、利用者数は低迷したが、感染拡大防止措置として、「毎利用時に利用者カードの記入」や「自身で利用スペースを清掃する」、「設置している机や椅子を間引く」等を行い、利用者が安心、安全に利用できるように取り組んだ。

◎イベント実施数：136 件

◎フリースペース来場者数：46,370 名

◎ブースおく・てまえ利用者数：5,743 名

② 7 階ラウンジの運営

設置している図書コーナーを図書ボランティアと共に運営し、季節や社会情勢に合わせた本の企画展示や、利用者がより利用しやすくなるよう貸出図書の整理を行うなど、図書ボランティアと共に行うことでより学びの空間として利用しやすくなるよう整えることができた。

③ 情報コーナーの運営

情報コーナーの情報整理を行うとともに、届けたい・発信したい情報の特設コーナー（今期はリカレント教育）を設置するなど目的以外の情報にも出会える仕掛けを行った。

(5) 市民みんなで作るウィズあかしを考える会議「ウィズあかし運営委員会」の開催

市民参画による運営を行うウィズあかしでは、多様な市民の意見が反映され、市民と一緒に運営していくウィズあかしを目指し、ウィズあかし運営委員会「市民みんなで作るウィズあかしを考える会議」を 2018 年度から設置している。2020 年度は第 1 期が 2019 年度末で任期が終了したため、新たに募集を行い、市民 11 名の第 2 期委員が決定した。新たな運営委員とともにこれからのウィズあかしのあり方について議論を積み重ねた。

◎委員人数：13 名

【開催内容】

	開催日時	内容	参加者数 (延べ人数)
第1回	9月25日(金) 18:00~20:30	① ウィズあかし運営委員会について ② ウィズあかしのこれまでに 意見交換「これからのウィズあかしに期待すること」	18名
第2回	12月23日(水) 18:00~20:30	① 前回の運営委員会の振り返り ② 自己紹介「私とウィズあかしの関わり」 ③ 意見交換「これからのウィズあかしに期待すること」	23名

(6) 市民サポーターの活動

市民参画による運営を行うウィズあかしでは、サポーター制度を設け事業の企画実施に参画できる仕組みを運営している。例えば、サロンに参加した人がサポーターとして運営に参加するなど、市民のエンパワメントの機会となっている。またサポーター同士の話し合いから、新事業が企画されはじめている。

◎登録サポーター数：50名

◎サポーター活動内容：つながりサロン等各種サロン運営、手話通訳、文字通訳、図書スペースの管理、あかし楽歴史講座の受付等当日運営、その他事務補助等

【サポーターが主体となって企画・実施した事業】

開催日	テーマ	内容	サポーター数 (延べ)
毎月第2水曜	ヨルつな ～夜のつながりサロン～	自由に参加して交流できるサロンの運営をサポーターが実施(平日夜開催)	10名
3月20日(土)	サタつな(プレ開催)	自由に参加して交流できるサロンの運営をサポーターが実施(土曜開催)	2名

(7) 満足度アンケート調査の実施

ウィズあかしの現状を把握するとともに、利用者の潜在的なニーズを把握するためにウィズあかし利用者満足度アンケート調査を実施した。例年と定点比較をするために、3月18日～4月17日の1ヶ月間で実施したが、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響もある中、回答数は前回は上回った。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令に伴い利用者が減少する中、今回で4回目となるアンケート調査においても、各項目にわたって、一定の評価を得ていると考えている。

利用者の傾向として、明石市内では東側（明石川以東・西）の地域に住み、年齢層としては40代以上、月1、2回以上の頻度で利用しているのが、それぞれ7割以上占めている。逆に、西側（大久保・魚住・二見）の地域に住み、年齢層が30代以下の利用者が少ないことが課題である。そのため、西側の地域へ積極的にアプローチする広報活動、若年層を取り込むためにSNSの媒体の活用した情報発信のあり方を検討していかなければならない。

一方で、より多くの人に必要な情報や支援が届くよう、工夫しながら相談事業に取り組む中、相談目的で訪れた利用者の悩みが解消できたと答える人も増えてきている。この点については引き続き継続して丁寧な対応を心がけていきたい。

また、コロナ禍の影響もあるのか、ウィズあかしに来た利用者は、依然として『会議・研修・教室への参加』の利用は多いが、『休憩・読書・自習等』が少しずつであるが増えてきている。

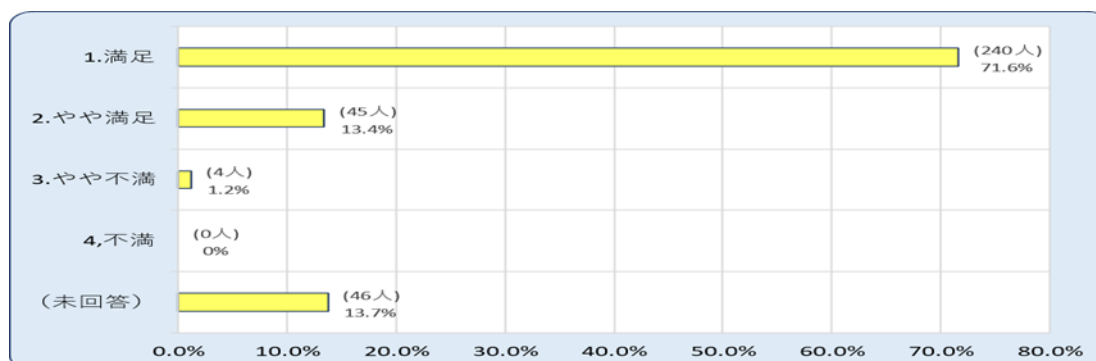
全体として顧客満足度は概ね高く、『館内の案内表示、清潔感』や『スタッフの対応』については特に高い満足度を得ることができ、個別意見の中でもスタッフに対しても感謝の声をたくさんいただくことができた。

◎期 間：2021年3月18日（木）～4月17日（土）

◎調査方法：ウィズあかし5カ所にアンケート用紙と回収箱を設置し回収した

◎回 答 数：335件

【アンケート項目：スタッフの対応はどうか？】



2. 複合型イベント・講座の実施

(1) ZOOM 体験機会の提供

例年、複合型事業として生涯学習、男女共同参画、市民活動のそれぞれの分野が連動した形でウィズあかし登録団体の交流会や市民同士の交流機会の提供を行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響からイベントや講座の実施を見合わせる形となった。

一方、外出自粛が求められる中、特別企画として取り組んだオンライン会議に関する取り組みでは多くの市民の参加があり、コロナ禍での学習機会の提供として成果をあげられた。

① ZOOM 体験 DAY「まずはオンライン会議を体験してみよう」

開催日：4月22日～7月8日の毎週水曜日

全12回（3部構成）

参加：491名

② オンライン交流会の開き方体験会

開催日：5月1日・15日、6月5日・19日

参加：47名

③ つながる ZOOM サロン@ウィズあかし

開催日：7月22日、8月5日・19日、9月19日・23日

10月14日・28日

参加：108名

(2) 多様な交流の場「クロスカフェ」の開催

様々な分野の誰もが気軽に参加できる交流の場「クロスカフェ」では、例年実施している「つながりサロン」や絵本やぬりえなどをテーマにした各種サロンに加え、日中に集まれない方を対象とした交流機会「ヨルつな～夜のつながりサロン～」や、次年度へのプレ開催として3月から「サタつな」（毎月第3土曜日）、「つな ZOOM」（毎月第4水曜日）を開催した。

【実施内容】

開催日	テーマ	講師	応募数	参加者数 (延べ人数)
毎月第1・3木曜日	つながりサロン	市民サポーター (ボランティア)	—	125名
毎月第2水曜	ヨルつな ～夜のつながりサロン～	市民サポーター (ボランティア)	—	35名
毎月第4水曜日	おとなのぬりえサロン	—	—	56名
3月20日(土)	サタつな(プレ開催)	市民サポーター (ボランティア)	—	3名

3月24日(水)	つな ZOOM (プレ開催)	市民サポーター (ボランティア)	—	8名
10月14日(水) 2月10日(木)	絵本 de セラピー	女性のための相談室 カウンセラー	15名	13名
12月12日(土)	アート de セラピー	佐藤 千恵子氏	15名	7名
7月29日(水) 9月29日(火)	ママ&パパのための 読書カフェ	—	5名	4名



▲つながりサロン



▲おとなのぬりえサロン

3. 男女共同参画事業

相談事業を行っている強みを生かし、女性カウンセラーが現場でのニーズから企画した講座を実施した。目的や対象に合わせて、「クロスカフェ」や「女性のための相談室」とも連動し、展示や講座などを組み合わせながら、支援を行った。また、従来女性に限定していた就業相談の門戸を男性に広げたり、市民団体との共催により LGBT 当事者を対象としたサロンを開催したほか、コロナ禍の状況に配慮し、一部の事業でオンライン対応を行うなど、より多くの人に必要な情報や支援が届くよう、工夫しながら事業を実施した。

(1) 女性のための相談室

女性のための相談室では、女性のさまざまな悩みに対して女性問題カウンセラーが対応する「女性のための相談」、就業相談員による「女性のための就業相談」のほか、月に数回、弁護士やキャリアカウンセラーによる「女性のための法律相談」「女性のためのチャレンジ相談」を実施した。また、相談者の悩みに応じて社会資源の案内をしており、各種相談機関との連携に努めている。

「女性のための相談」の相談総件数は 902 件で、前年度に比べて 10%減となった。これは、新型コロナウイルス対策で子どもや夫が在宅しているため架電しにくくなったことや、外出を自粛したことなどが影響していると思われる。

「就業相談」については、今年度から性別に関わらず相談できる体制を整えたところ、男性の相談者が 36 名に上った。このように相談の間口を拡大したことにより、学生の模擬面接指導から出産後の再就職や定年後の再就職相談など、幅広い層の相談ニーズへの対応ができるようになった。また、新たに「カードで発見！ 適職のヒント」を開始したところ 65 名の参加があり、自己理解を深めるツールとし

⑤ カードで発見！適職のヒント

実施日	内容	人数・件数内訳	
火曜～土曜	女性就労相談員による適職に関する相談	相談件数	65 件 ※男性 9 件、女性 56 件

⑥ 女性のためのチャレンジ相談

実施日	内容	人数・件数内訳	
隔月 1 回 (計 8 回)	女性キャリアカウンセラーによる個別面接 相談 ※兵庫県との連携事業	面接相談	16 件 ※うち 3 件は夜のチャレンジ相談

(2) 男性のための電話相談

「男らしさ」というとらわれの中で、誰にも言えず一人で悩みを抱え込んでいる男性に相談の場を提供するため、2019 年 1 月より実施している。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあってか、相談件数や問合せが増加した。

【実施内容】

実施日	内容	人数・件数内訳	
第 3 水曜日 (計 12 回)	男性相談員による男性の様々な悩みに対する 電話相談	電話相談	24 件

(3) 講座・セミナーの開催

① 多様性に関する普及啓発事業

従来の「らしさ」ととらわれない、それぞれの個性や価値観を認め合う社会を目指し、講座や展示を行った。

【講座・交流会】

開催日	テーマ	講師	応募数	参加者数
2 月 13 日 (土)	人権セミナー 「LGBTQ+の子ども たちの声をきくための スタートライン」	P Roud Futures 小野アンリ 氏 向坂あかね 氏	42 名	42 名 (来館 14 名、オンライン 28 名)
毎月第 4 土曜日	LGBTQ+コミュニ ティサロン (おとなの サロン)	※LGBTQ+の当事者と支援者で構 成された市民団体「ソラニジ・アカシ」 共催	83 名	75 名
6 月 28 日 (日) 9 月 6 日 (日) 10 月 4 日 (日) 11 月 8 日 (日) 12 月 6 日 (日)	ひだまりひろば (LGBTQ+ユースサ ロン)	※LGBTQ+の当事者と支援者で構 成された市民団体「ソラニジ・アカシ」 共催	-	8 名

【展示】

開催日	テーマ	展示場所
6月23日～6月29日	男女共同参画週間	7・8階ウォールギャラリー・フリースペース・ 情報ライブラリー
11月12日～11月25日	パープルリボンキャンペーン	8階ウォールギャラリー・フリースペース・ 情報ライブラリー
1月9日～2月27日	LGBTQ+キャンペーン	7階ウォールギャラリー・9階子午線ホール入口

② エンパワメントセミナー

自分を大切に、相手を大切にする考え方を学ぶ講座をワークを交えながら行ったり、一部の講座ではオンラインもできるようにするなど、より多くの方が安心して講座に参加できるよう配慮した。

【実施内容】

開催日	テーマ	講師	応募数	参加者数
10月3日(土)	発掘オトコの幸せ！これからの生き方を考える	『男』悩みのホットライン代表 福島充人氏	22名	18名 (来館14名オンライン4名)
12月5日(土)	自分の想いを大切にするためのコミュニケーション	ソーシャルスキルトレーニング認定講師・作業療法士 岸本徹彦氏	20名	14名
2月24日(水)	女性のための法律講座	弁護士 和田谷幸子氏	7名	7名

③ 自分らしく働くための「就業」「起業」に関する講座

それぞれのライフステージにあわせた働き方を選択するための知識や方法を学ぶための講座を開催した。

【実施内容】

開催日	テーマ	講師	応募数	参加者数
10月1日(木) 2月4日(木)	出張就業相談 (子育て支援センターおおくぼ)	女性のための相談室 就労相談員	8名	8名
2月20日(土)	初めての起業～起業でわたしらしく働きたい！～ ※一般財団法人女性労働協会協力	一般社団法人起業支援ネットワーク NICE 増田紀彦氏	25名	23名
11月14日(土)	出張！女性のための働き方セミナー「さがそう仕事で活かせる資格」 ※兵庫県共催	社会保険労務士 高見香織氏	16名	15名
8月1日(土)	起業応援セミナー ※一般財団法人明石市産業振興財団共催	株式会社SAIサポート 堂山一成氏	20名	25名 (うちオンライン16)
1月21日(木) 2月16日(火)	テレワーク導入セミナー ※一般財団法人明石市産業振興財団共催	社会保険労務士法人NSR 武田かおり氏	36名	22名



▲発掘オトコの幸せ！これからの生き方を考える



▲自分の想いを大切にするためのコミュニケーション

(4) 他団体との連携事業

事業の実施や施設の運営に関して、近隣の公共施設や専門的なスキルを持った市民団体等と連携し実施した。

【連携内容】

連携機関	連携内容
兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> ・女性のためのチャレンジ相談（通年） ・女性のための働き方セミナー（11月14日）
一般財団法人明石市産業振興財団	<ul style="list-style-type: none"> ・起業応援セミナー（オンライン）（8月1日） ・テレワーク導入セミナー（オンライン）（1月21日・2月16日）
一般財団法人女性労働協会	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての起業（2月20日）
あかし女性応援ねっと	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本女性会議 2020 あいち刈谷」サテライト会場（11月13・14日） ・あかし女性応援講演会（3月20日）
ソラニジ・アカシ	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTQ+の子どもたちの声をきくためのスタートライン（2月13日） ・LGBTQ+コミュニティサロン（通年） ・ひだまりひろば（通年）



▲女性のための働き方セミナー



▲初めての起業

4. 生涯学習推進事業

2020 年度はこれまで実施してきた内容を拡充化と合わせ、コロナ禍における学習機会を工夫することに取り組んできた。

あかし楽講座では、これまで実施してきた歴史講座でオンライン受講を初めて試みた。毎回約 1 割が Youtube から視聴しており、新たな学習環境を提供することが実現できた。また新たな層に地元地域に関心を促せるよう「@あかしゼミ」を開催。地域の魅力づくりに携わる現場の方に直接話しを聞ける機会によって、若い世代の参加を促すことができた。

みんなの講座ではこれまで行ってきた講師支援の方式を変え、講師同士が学び会える環境を整えた。事前広報などを互いに指摘し合うことで客観的な視点を醸成することを狙い、講師・参加者ともに満足度が高まる講座運営に繋がられた。

(1) みんなの学校 2020 の開催

市民誰もが講師・生徒に慣れる学びの機会であり、昨年度はコロナ禍の影響で延期になっていたみんなの学校を開催した。3月に実施予定で合った際から講師の追加募集をかけ、当初の予定よりさらに講師の人数は増えての開催となった。講師のバリエーションも増え、参加者も 1 回目から約 400 人増となった。講師としても参加者としても気軽に参加できる学びの機会として定着しつつある。

◎開催日：2020 年 10 月 17 日（土）、18 日（日）

◎参加者数：838 名

◎講師数：57 組



(2) 講座・セミナーの開催

① あかし楽講座現地特別講座「ふるさと散歩～大久保 屏風ヶ浦海岸を歩く」

あかし学実行委員会が講師となり、明石市内の史跡や神社仏閣などの文化遺産を歩き、普段見慣れた街並みの中の魅力を再発見する講座。コロナ禍で時期を延期し開催した。当日は事前研修を受けたガイドボランティアが運営サポートを行った。

◎開催日：2020 年 11 月 7 日（土）

◎応募者数：46 名

◎参加者数：28 名



② あかし楽歴史講座「諸学諸相の歴史から見た明石Ⅱ」（全 10 回の連続講座）

あかし学実行委員会による企画・運営の講座。2020 年度はコロナ禍の影響により、オンライン受講も併用して開催した。内容は様々な分野から明石の歴史に迫り、参加者にとって地元地域を多様な視点から捉える機会となった。

◎申込者数：85 名

【実施内容】

開催日	テーマ	講師	参加者数 (内オンライン)
9 月 12 日 (土)	明石の昆虫	西日本蜂研究会 福島秀毅 氏	64 名 (7 名)
9 月 26 日 (土)	明石の植物	植物研究家 竹上秀巳 氏	59 名 (6 名)
10 月 10 日 (土)	明石・兵庫における えびす信仰の今昔	明石工業高等専門学校准教授 荒川裕紀 氏	59 名 (4 名)
10 月 24 日 (土)	明石八景の文学	神戸学院大学准教授 中村健史 氏	60 名 (5 名)
10 月 31 日 (土)	明石の方言	方言研究者 橘幸男 氏	65 名 (5 名)
11 月 14 日 (土)	明石の近世絵画	元甲南女子大学教授 木村重圭 氏	59 名 (8 名)
11 月 21 日 (土)	明石海峡の漁業	前兵庫県水産技術センター所長 堀豊 氏	56 名 (8 名)
11 月 28 日 (土)	明石の伝統的民家	新居浜工業高等専門学校校長 八木雅夫 氏	62 名 (7 名)
12 月 12 日 (土)	地理から見た明石の ため池	兵庫教育大学大学院教授 南埜猛 氏	49 名 (2 名)
12 月 19 日 (土)	明石の野鳥	日本野鳥の会 丸谷聡 氏	50 名 (1 名)

③ あかし楽「@あかしゼミ-まちの魅力と出会う講座-
~あかしの海を知る~」（3 回講座）

あかし学実行委員会によって新たに企画され、開催した。現場で活躍する人に話を聞いたり現場に赴いたりするなどし、今の明石のまちの魅力を知る機会を提供した。参加者の 7 割が初めてのウィズあかしの講座受講生であり、新たな層に向けた学習機会を提供できた。

◎申込者数：85 名



【実施内容】

開催日	テーマ	講師	参加者数 (内オンライン)
10月8日(木)	新聞記者から見た、海のまち・明石の魅力	神戸新聞社記者 金山成美 氏	52名
11月14日(土)	漁協の現場を見る～明石浦漁協にて～	明石浦漁業協同組合代表理事組合長 戎本裕明 氏	38名
1月21日(木)	海のまちに生きる人のメッセージ	神戸新聞社記者 金山成美 氏 明石浦漁業協同組合代表理事組合長 戎本裕明 氏	35名(25名)

④ 市民企画「みんなの講座」

市民自らが趣味や特技を活かして講師となる講座の企画を募集。事前研修・会場確保・広報等の支援を行い、5名が講師デビューをした。

◎実施数：5企画（応募数9企画）



【実施内容】

開催日	テーマ	講師	応募数	参加者数 (延べ人数)
10月4日(日) 10月11日(日)	「女性ホルモン」を知って『更年期の不調の波』をのりこなそう	メノポーズカウンセラー・女性の健康経営アドバイザー ワタナベコトコ 氏	8名	14名
10月10日(土) 10月24日(土) 11月14日(土)	子午線街道をゆく～子午線博士をめざそう～	子午線文化研究家・理学博士 吉野健一 氏	13名	27名
10月15日(火) 10月28日(火)	忙しい毎日にゆとりができる！ ママが学ぶお片付け講座	くまのもりお片づけ学校 國光彰子 氏 松本まどか 氏 森田智明 氏	16名	28名
10月29日(土) 11月28日(土)	親子で楽しむ絵本時間～子どもと楽しむ絵本の紹介・選び方・わらべうた～	親子で楽しむ絵本のある暮らし「つながりえほん」主宰 場谷理恵 氏	14名	20名
11月5日(日) 11月19日(日)	自分のことがよくわかる心理学	KOKO心理学スクール代表、心理コミュニケーター 五十嵐木綿子 氏	12名	20名

5. 市民活動支援事業

2020 年度は、外出や集合の自粛などに伴い、団体・個人の活動の機会損失を防ぐ目的でオンラインを使用したイベントや講座を開催し、受講後には実際にオンライン会議を取り入れる動きも見られ、新しい時代の活動方法として多くの層に対して支援することができた。またオンラインを使用する団体の運営相談等も増加した。

また、「ウィズあかし市民活動ステップアップ助成」を行い、コロナ禍の中「新しい活動をスタートさせたい、これまでの活動をステップアップさせたい」団体に対して助成することでオンライン環境の整備等、さまざまな事業を実施するための支援をした。

イベントのコーディネートとして、「ウィズフェス 2021」等ではあかし市民広場を会場とするなど、多くの市民に団体の日頃の活動の紹介やPR、啓発、会員の募集など活動の幅をひろげる機会の提供を行った。

次年度へ向けて、団体はもとより個人も登録ができ、団体と同様にサポートができるよう、登録制度の変更・見直しを行う準備をした。

(1) 登録団体制度

新規設立団体をはじめ、登録件数は順調に増加している。新規に活動スペースを増設し、会議やサロンなどに多く使用されている。

フリースペースイベントやメーリングリストでの恒常的な支援に加え、団体の交流・意見交換の場である「ウィズゆう」を開催することにより、団体間の交流が生まれ、活動に対する意識が高まっている。登録団体の情報交換・意見交換の場「ウィズゆう」は年2回開催し、来館とオンラインでの参加方法を取り、参加団体数も増加し、団体同士の横のつながりの交流の場となった。

◎交流・意見交換会「ウィズゆう」

第1回（6月23日）：21 団体 24 名（来館 18 名、オンライン 6 名）

第2回（12月9日）：30 団体 33 名（来館 26 名、オンライン 7 名）

◎登録団体数：188 団体

【サポート内容】

メニュー	内容
スペース∞・活動スペース A・B のイベント利用	イベントでの利用ができる
グループ活動スペース（スペース∞、活動スペース・ブースおく・てまえ）の利用	団体内の打ち合わせや作業のスペースが利用できる
メーリングリストの利用	登録団体のイベント情報を共有できます。自分の団体のPRはもちろん、他団体の活動の情報収集もできる
グループ活動展示スペースの利用	団体の活動紹介や作品の展示ができる
イベントの受付代行	団体の主催するイベントの申込代行受付を利用できる（有料）

ロッカーの利用	大・小 2 種類のロッカーが利用できる (有料)
印刷室の利用	モノクロ印刷、カラー印刷、長尺印刷
チャレンジグッズの貸出	ドミノ、ピブス、ワークショップグッズ、交流活動グッズ、書籍、えんたくん (テーブル型模造紙)

(2) 生涯学習・市民活動に関する相談・コーディネート

個人の「学びたい」や、団体の活動、次のステップに展開するためのアドバイス、団体同士のコラボを促すコーディネートを行った。個人や団体の活動をステップアップするアドバイス・団体間のコラボレーションを促すコーディネートを実施した。相談の中には、NPO法人設立相談等の相談が 6 件となっている。昨年度と比較すると、相談は 1.56 倍、コーディネートは 3.21 倍に増加した。全体を通して、オンラインを使用しての相談やオンラインに関する相談が 26 件あった。

【実施内容】

メニュー	件数
生涯学習、市民活動に関する相談	138 件
生涯学習、市民活動に関するコーディネート	24 件

(3) 登録団体のイベントコーディネート

あかし市民広場で実施されるイベント等に登録団体をコーディネートすることで、多くの市民に団体の日頃の活動の紹介やPR、啓発、会員の募集など活動の幅をひろげる機会の提供を行った。

①みんなであそぼう！こどもハロウィン in あかし市民広場

- ◎開催日：10月25日(日)
- ◎コーディネート数：こどもをテーマとする団体を9団体
- ◎来場者：750名

②ウィズフェス 2021 in あかし市民広場「ウィズミーツ」

- ◎開催日：2月6日(土)・7日(日)
- ◎コーディネート数：活動紹介パネル展示 35 団体
動画放映 11 団体
- ◎来場者：158名

③ウィズフェス 2021 in あかし市民広場「MIXフェス」

- ◎開催日：3月13日(土)
- ◎コーディネート数：ブース出展 6 団体
ステージ発表 16 団体
- ◎来場者：661名

④ウィズフェス 2021 in あかし市民広場「まちライブラリーフェスタ」

◎開催日：3月14日（日）

◎コーディネーター数：本をテーマとする団体6団体

ステージ発表：3団体

◎来場者：301名

(4) ウィズあかし市民活動ステップアップ助成

法人では初めての助成事業。コロナ渦による活動停止からの再開等を支援することを目的としてステップアップ助成と銘打った。これは、ウィズあかし8階設置の市民活動支援自動販売機の売り上げを原資として実施した。採択団体からは、「この助成があったからオンラインを使った新しい活動ができた」とコメントがあるなど、新しい活動へのステップアップとして助成できた。

◎対象：ウィズあかし登録団体または校区まちづくり組織

◎応募数：21団体

◎採択数：17団体 1団体上限3万円

◎助成総額：50.5万円

6. 広報

複合型交流拠点ウィズあかしを広く市民に知ってもらうため、これまで紙面や画面上では伝えきれなかった臨場感や温度感を伝える新たな情報発信の場として動画配信サービス YouTube の活用を始めた。活用方法としては、録画配信やライブ配信以外にも中継をつないで現地の情報を発信する試みも実施し、幅広い情報発信をした。一方、インターネットを介しての情報発信だけでなく、毎月発行している「イベント情報紙 With」や図書パスファインダー（道しるべ）を活用し、多くの方に情報が届く工夫をした。

館内では、来館者が多彩な施設や人から届くチラシやパンフレットに出会えるよう配置や掲示物等で工夫をした。また、ウィズあかしの存在・機能を知っていただくきっかけとして「ウィズあかしできることBOOK」を作成し、窓口でのコーディネーターなどに活用し始めた。

(1) インターネットを活用した情報発信

① ウィズあかしホームページの運営及び更新

ウィズあかしホームページでは、スライドショーやお知らせ投稿を活用し、最新の情報を発信した。

◎年間アクセス数：156,865pv（ウィズあかしホームページ）

② 動画配信サービス YouTube「ウィズあかしちゃんねる」開設

インターネット環境があれば、どこでも好きな時間に動画で情報を得ることができる特性を活かし、学びの機会提供やウィズあかしのセンター機能の紹介など多様な情報発信に努めた。

◎登録者数 33 人



③ 各種 SNS (Facebook、Instagram、Twitter) の運用

貸室の休館情報や開館時間の短縮など緊急度の高い情報も迅速に発信するように努めた。SNS をきっかけに主催事業に参加する方も見られ、オンライン事業には他県から参加した方もいた。

◎Facebook フォロワー数：516

◎Instagram フォロワー数：249

◎Twitter フォロワー数：702

いずれも 2021 年 3 月 31 日現在

(2) 広報誌の発行

① ウィズあかしの情報紙 With の創刊・発行

ウィズあかしのイベントや情報を発信する情報紙として毎月発行している。ウィズあかしからのイベントの告知や館からの案内を掲載し、登録団体インタビューコーナーに加え、明石市発行の「まちコレ」から 1 校区ずつ抜粋し市民や登録団体と地域がつながるきっかけとした。

◎発行部数：毎月 1000 部発行

② 図書パスファインダー（道しるべ）の発行

主催講座の PR やテーマの啓発を目的に、7 階図書コーナーに所蔵する関連書籍の紹介を目的としている。

◎発行部数：800 部発行（2 回発行）

◎各回のテーマ：「自分らしく生きよう。自分を好きになろう。」

「ジェンダーについて、考えてみませんか？」

II. 協働のまちづくり推進事業-明石市委託事業 -

今年度の協働のまちづくり推進事業支援は、市民が協働のまちづくりに関われる間口を拡げていく1年となった。その具体的な成果として挙げられるのは、これまで中学校区ごとに生涯学習の拠点として設置されていた中学校コミセンを、地域における生涯学習をコーディネートする「学びのハブ」と位置づけられたこと、また校区まちづくり組織の支援を通じて、複数の校区において組織体制などの見直しが行われたことが挙げられる。

これまで協働のまちづくりでは、小学校区ごとの校区まちづくり組織が中心となり「協働のまちづくり推進組織」へとステップアップする過程で地域住民や団体の関わりを促してきた。その結果、令和2年度までに28校区中15校区が協働のまちづくり推進組織として認定されているが、現状は認定・未認定校区に関わらず、より協働のまちづくりを広げていくために「新たな活動の担い手をいかに増やしていくか」ということが課題になっている。

その対策の一つとして、昨年度から継続して中学校コミセン改革モデル事業を担当した。生涯学習の拠点として中学校コミセンの課題は、現状では高齢者大学やサークル活動など利用層の偏りにある。今年度のモデル事業においては、地域情報を収集しながら地域内の学びの拠点として広報や事業企画の支援を行い、より開かれたコミセンのあり方を模索した。またそのようなコミセンのあり方を市全体に拡げていくために、コミセン所長に対して「学びのハブ」という方向性の意識付けにも注力した。

今年度は下半期より「あかねが丘学園オンライン環境整備事業」を受託し、中学校コミセンのオンライン環境整備に関わる中で、中学校コミセンにおける新たな生涯学習「あかねカレッジライトコース」の企画・準備も行った。これらを通じて、中学校コミセンがより開かれた地域の生涯学習拠点として位置づけられつつある。

また、協働のまちづくりを推進する校区まちづくり組織の組織体制見直しも注力した。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、地縁活動・分野型活動のいずれにおいても従来の活動を行うことができない1年であり、そのような中で組織構成や体制など組織の基盤を見直す動きが加速し、それぞれの校区の状況に合わせて支援を行った。認定校区であっても活動やメンバーがマンネリ化する中で、まちづくりに関心のある地域住民が関わりやすい組織のあり方を改めて見直したり、参加しやすい事業や意見交換機会を考えたりするなど、より多様な地域住民が参加しやすい組織へと変革しようとする状況が生まれつつある。

1. 地域自治の支援事業

(1) 全体支援

全体支援ではコロナ禍の状況において、いかに市民主体の活動を機能させていけるかを意識し、臨機応変にその都度必要な支援を展開してきた。年度当初は情報提供・相談対応に注力し、市内外の地域活動や分野型活動の情報を把握し、参考になりうる情報のSNSでの発信や、各種相談に応じられるよう相談体制を整えた。また、コロナ禍における活動支援として、ウィズあかしと連携しオンラインツール

の体験機会を提供した。オンラインツールの活用ノウハウは、地域事務局や連合まちづくり協議会広報部会の会議等での活用や、また他機関から活用の相談支援に対応するなど、現在も続くコロナ禍でのまちづくりにとって重要なリソースにもなっている。

また、認定済みの校区を他地域での事例紹介にコーディネートしたり、市内の他機関との連携ツールとして地域カルテを作成したりするなど、協働のまちづくり推進組織全体の底上げを目的とした取り組みを行った。

1) 情報共有・情報発信（提供）

① LINE 公式アカウント「明石のまちづくり情報」での情報発信

地域・分野型活動が停滞しがちになる中で、コロナ禍での活動に関する情報や、明石市内外の活動事例を情報収集し、LINE 公式アカウントを開設し週に数件のペースで情報発信を行った。

配信期間	配信件数／ 登録人数	配信内容
4月28日～	82件／ 166人	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域のコロナ禍での交流機会、避難所開設など地域活動の運営マニュアル ・市内のコロナ禍における地域活動の開催状況、方法 ・その他まちづくりに関連した資料、情報 など



② まちなび AKASHI 校区ページのリニューアル

開設から年数が経過する中で、継続的な更新がしづらい仕様になっていたページ改修や、校区の更新頻度に合わせたページの見せ方へと改善するために、校区ページ全体の見直しを実施した。

③ その他

校区まちづくり組織の認知を広げるため、以下のような取り組みを行った。

- ・情報誌 With に校区まちづくり組織掲載
- ・ウィズあかし内に 28 の校区まちづくり組織の情報紙配架ラックの設置

2) 相談・コーディネート

① コロナ感染拡大下における自治会、校区まちづくり組織、テーマ型団体の相談業務拡充

コロナ禍による緊急事態宣言や外出自粛要請に伴い、地縁型団体・テーマ型団体が活動を進める上での困り事や不安なことについて相談ができるよう、電話相談のチラシ作成し自治会への配布を行い、各種相談対応の拡充を図った。

相談件数	相談事例
10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での自治会活動について、他地域の動きについて (総会の開き方、自治会費の回収方法、公民館の運営方法、清掃活動、など) ・ 自治会とまち協の関わり (退会方法) について ・ 選挙の開催、会則や規約の作り方について など

② 視察・講師依頼のコーディネート

明石市内で行われるまちづくり活動を、各まちづくり組織自身が活動事例として伝える機会を作ることと、これまでの活動の思いや特徴を整理することにもつながり、また組織自身が取り組みに対して自信がつくことを目的にコーディネートを行った。

コーディネート日	コーディネート内容
11月6日(金)	加西市でふるさと創造会議役員等に向けて山手校区が事例発表
11月26日(火)	佐用町で地域づくり協議会広報部会員等に向けて江井島校区、林校区が事例発表

③ オンライン開催「協働のまちづくり勉強会」の企画・調整

明石市連合まちづくり協議会が主催する「協働のまちづくり講演会」が、コロナ禍により通常開催できない中で、オンラインを活用し市内の活動事例を共有する「協働のまちづくり勉強会」として企画提案を行った。また、事例提供を行う校区として、先述の通り例年市内の事例発表を行っている校区以外が活動成果を共有できるよう校区のサポートを行った。

【調整内容】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月24日(日) <p>明石市「協働のまちづくり勉強会」において林校区、中崎校区が事例発表(※開催中止)</p>
--

3) 活動支援・人材育成

① オンライン会議ツール体験機会の開催

オンライン会議ツール「ZOOM」を実際にオンライン上で体験できる体験会を開催した。

開催回数	参加者数	参加者
16回 (4月22日～7月8日)	延べ538名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区まちづくり組織(役員、事務局、自治会長など) ・ 市民活動団体 ・ 行政関係、活動支援者、施設運営者 ・ 個人(高齢者大学生など) など

② オンライン地域事務局サロンの運営支援

昨年度開催した地域事務局同士が交流したり情報交換したりする機会として開催を支援した「地域事務局サロン」を、今年度はオンラインでの開催となり、その運営支援を行った。



【実施内容】

開催日	参加校区	内容
6月26日(金)	5地域 (和坂、鳥羽、江井島、山手、魚住)	・コロナ禍での各校区まちづくり組織の活動状況について など

③ 明石市連合まちづくり協議会広報部会の運営支援

コロナ禍で通常部会の開催ができない中、オンラインでの会議運営の全面的なサポート行うなどし、広報部会の運営支援を行った。

【「明石のまちづくり」発行内容】

発行号	発行月	内容	発行部数
新型コロナ ウイルス特別号	8月	特 集：コロナ禍での新しいまちづくり活動 その他：自粛中の活動、相談窓口など	9,000部
第8号	12月	特 集：コロナ禍におけるまちづくり活動 その他：コロナ禍でもいろいろな工夫で行われる取組など	13,500部

4) 他機関連携

① 地域支援進捗管理表及び地域カルテの作成

明石市コミュニティ・生涯学習課と当方の校区支援スタッフ同士が、校区の支援方針を共有するための「地域支援進捗管理表」のフォーマット作成と、福祉・教育など多様なテーマで校区を見る支援者同士が校区の状況を同じ視点で捉えるための「地域カルテ」のフォーマット作成を行った。

② 各種機関との連携

協働のまちづくりを推進していくために、多様な分野との連携・情報共有等を進めた。

【主な連携機関・連携内容】

連携機関	連携内容
社会福祉協議会	・支援者連携会議等での情報共有 ・無理しない地域づくりの学校の運営支援
明石市教育委員会学校教育課	・支援者連携会議等での情報共有 ・コミュニティ・スクール推進フォーラムへのパネリスト登壇
ASK (明石市障害当事者等団体連絡協議会)	・オンライン会議ツールの活用支援

(2) 校区直接支援

今年度の校区まちづくり組織の状況としては、従来の活動が行いづらい状態も影響し、体制の見直しや基盤強化に展開し始めた校区が多くあった。協働のまちづくり組織認定から一定期間が立っている校区にとっては、活動やメンバー体制がマンネリ化し始めているところも少なくない。そのような校区に対して、計画書策定から第2段階の組織体制の見直しとして手厚く関わった。計画書策定中の校区やこれから策定を目指していききたいと動き始めている校区に対しては、活動が停滞することで思いが途切れないよう注意しつつ、会議等への出席を行いながら、各種活動の情報・事例提供や広報に関するサポートなど継続的な伴走支援を行った。

① 地域交付金受託校区

交付金受託校区は主に組織体制や活動の見直しに向けてのサポートに注力した。先述の通り、組織を活性化するために、明石市内に限らず参考になりそうな活動や組織体制の情報収集を行い、事例提供などを通じて議論が支援を行った。今年度から引き続き、次年度も継続して体制見直しを行っていく校区が見受けられる。

校区名	松が丘 / 朝霧 / 中崎 / 藤江 / 山手 / 魚住 / 錦が丘 / 錦浦
-----	---

② 計画書策定校区

まちづくり計画書を策定するための会議や意見交換の場づくり、計画書プロジェクトチームの立ち上げ支援など組織強化や、今後の活動につながる支援をおこなった。過去、市内で実施してきた取り組みを参考にまちづくりアンケートの実施などをサポート。まちづくりに参加したい市民が 300 人を超えるなど、新たな活動者を巻き込む支援が行えている。

校区名	大久保
-----	-----

③ その他校区

まちづくり計画書策定に着手する手前の校区に向けて、組織強化の意識啓発を目的に会議の運営支援などに関わった。数年間、継続的に関わり情報提供などを行ってきた校区が計画書着手を表明するなど、少しずつ変化が生まれ始めている。

校区名	大観 / 貴崎 / 大久保南 / 二見
-----	---------------------

2. 中学校コミセン改革モデル事業

中学校コミセン改革においては、大蔵・錦城に新たに朝霧コミセンもモデル事業として加わり、これまで以上に地域との連携した生涯学習の拠点としての成果を見いだせるよう、それぞれの状況に合わせてモデルコミセン支援を行った。特に地域の中の「学びのハブ」となるために地域と連携した広報ツールの開発や、講座開発を通じ地域の中の学習拠点としての充実化を進めた。

また、モデルコミセンで見てきたこれからの中学校コミセンの方針を市全体に拡げていくために、他のコミセンの所長・職員に対しての意識啓発にも取り組んだ。これまでは情報交換や研修など、所長や職員自身が生涯学習拠点の運営に対し視点や意識を高めたりする機会を持っていないことが課題でした。所長会や職員連絡会での情報共有、研修機会の開催、また新たに始まる高齢者学習「あかねカレッジライトコース」に検討段階から参画できる機会を持つことで、中学校コミセンの運営に対する意識を高め、互いの認識をすり合わせることを進めた。

(1) モデルコミセン支援

① エリアマネジメント支援

地域との連携した生涯学習の拠点「学びのハブ」として機能していくために、各コミセンの状況に合わせてエリアマネージャーに向けて地域との連携支援を行った。年間を通じて以下のような切り口で各コミセンに対して取り組みました。またその方針を毎月の「モデルコミセン会議」の中でエリアマネージャーから進捗共有を行うことで、共通認識を図りながら進めた。

モデルコミセン	エリアマネジメントに向けた支援内容
朝霧コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内で活動する団体の情報提供 ・まちづくり協議会とのコーディネート・連携支援 ・広報活動における地域内で活動する団体、個人とのコーディネート など
大蔵コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の学習情報の拠点化に向けた情報ラックの整備支援 ・事業実施のための地域内で活動する個人、団体のコーディネート ・情報発信のための地域内の拠点とのコーディネート など
錦城コミセン	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施のための地域内で活動する個人、団体のコーディネート ・情報発信のための地域内の拠点とのコーディネート など

② 広報支援

中学校コミセンのイメージを変えていくために、下記のようにモデルコミセンにおける広報ツールの見直しを行った。

広報ツール	広報内容
広報紙「まなぶる」	コミセンや地域での学びの写真、講座情報、地域で学習活動を行う人の紹介、地域の学びに関する情報掲示 など
LINE アカウント (※新設)	講座開催の告知、講座の実施報告、コミセンからのお知らせ、コミセンや地域の学びに関連した情報 など



▲広報紙「まなぶる」



▲LINE アカウント

③ 生涯学習事業などの実施支援

10 月から再開された市民講座の企画や講師との調整、また新たに取り組んだ交流機会づくりの企画など、生涯学習事業に関連した運営のサポートを行った。また講座を通じて来館した利用者が憩えるような空間づくりなど、拠点整備の企画提案をした。

(2) 全体支援

① 中学校コミセンの所長・職員への意識啓発

中学校コミセン改革やモデル事業で目指している方向性を、全コミセンの所長や職員に向けて共有するために、以下のような意識啓発を目的とした取り組みを行った。

概要	意識啓発内容
所長会での情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月：モデルコミセンでの進捗状況の共有支援 ・ 10月：モデルコミセンでの取り組み状況の共有 (広報紙のリニューアル、LINEでの情報発信、講座の見直し、交流機会の実施、など) ・ 1月：中学校コミセンの「学びのハブ」に向けたイメージ図の共有
ライトコース等にかかるプロジェクト会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回～第5回： あかねカレッジライトコースのあり方を検討する機会を通じ、コミセンにおける高齢者学習や生涯学習事業のあり方自身の見直し
モデル事業報告会の運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月23日(火)： モデルコミセンで取り組んだエリアマネジメント事業など意図や背景

中学校コミュニティ・センター モデル事業の成果と今後の展開 ～地域における生涯学習をコーディネートする「学びのハブ」に向けて～ 2021年1月現在

1.情報収集・情報発信

成果

- ①コミセン情報紙のリニューアル
・まなぶるの発行
- ②SNS (LINE) を使った情報発信
・講座の告知
・講座内容のレポート
・コミセンからのお知らせ など
- ③地域情報の収集
・コミセン登録サークル
・まちづくり協議会
・夢文庫など地域内の学びの情報
・総合支援センターなど
・地域内の活動拠点の情報 など

今後の展開

- ①地域情報掲示板の設置
・地域内の活動情報などが目やすぐ設置されることで、コーディネートをさらに促す。

2.交流機会の提供

成果

- ①講座での課題を通じサークルとの出会い・交流会
・市営講座を通じて初めて参加した利用者
→サークル活動の様子や活動の存在を知り、入会や見学希望者をサポート。

今後の展開

- ①交流拠点としての空間づくり
・講座受講だけでなく、学びや地域に関心のある方が、まずは気軽に足を運べるよう、テーブルやソファなどを設置し居心地がよい空間づくりを行う。
- ②図書スペースの設置
・空間づくりとともに、学びのツールとしての図書を活用し、コミセンを利用するツールとして設置する。また図書を使った交流企画も合わせて実施。

3.人材発掘及び人材育成

成果

- ①新たなコミセン利用者の発掘
→多様なテーマでの市民講座、各種広報紙等利用による講座参加者の拡大
→受講アンケートの実施、分析による把握
- ②講座講師の発掘
・コミセン登録サークル
・まちづくり協議会の部会長
・地域内の市民活動団体
→市民講師（ワズあかしみんなの学校） など

今後の展開

- ①より多様な市民に開いた学習の機会提供
・ライトコースなど、自分の生活リズムや関心に合わせて、開催時間や多様なテーマを選別して受講できる講座の開発
- ②サークル関係の活動機会
・コミセンで活動するサークル活動スキルを生かした学習機会の提供

4.コーディネート及び活動支援

成果

- ①講座を通じたコーディネート：活動支援
・音あそび講座受講者
→その後の講座アシスタントに
- ②広報を通じたコーディネート
・講座申込者が広報誌に掲載した夢文庫の情報を見てコーディネート

今後の展開

- ①地域内の活動へのコーディネート
・まちづくり協議会など地域で行われている活動と連携し、講座受講からコーディネートを促す。
→日常からのコーディネート、相談体制を充実。

5.自主的な学びのサポート

成果

- ①講座参加者へのサロン：グループ化のサポート
・絵本講座～絵本サロン
・歴史講座
→地域の歴史やまちの魅力を学び合うグループ化 など

今後の展開

- ①自立させるまでのサポート方法の構築
・参加者の状況により自主的な学びの機会までどのようなサポートが必要か、モデル事業内でさらに検証。

▲今後の中コミが目指す「学びのハブ」のイメージ図

② 研修機会の実施

他地域の生涯学習拠点の事例提供を通じて、所長が現在のコミセンのあり方を見直す必要を感じる機会となるよう、研修機会を開催した。

開催日	講師	内容
12月4日(金)	立石孝裕(尼崎市武庫地域振興センター) 宮内龍太郎(明石コミュニティ創造協会)	・尼崎市における生涯学習事業の事例 ・生涯学習の多様な機会づくり ・意見交換

③ 生涯学習の啓発活動

中学校コミセンを含め、明石の地域内で広がる生涯学習活動をPRし、生涯学習のイメージを変えるために、広報物の作成を通じたPR活動を行った。

発行月 発行部数	発行物	内容
3月 5,000部	明石まちなかブックスポット MAP	・明石市内で中学校コミセンなど公共施設や個人・民間の拠点において本棚を設置し図書の貸し出しを行っている拠点を50箇所取り上げた冊子

④ 情報提供・コーディネート

生涯学習事業の企画にあたり、市内で活動する団体や個人の講師をコーディネートできるよう、各種資料の提供と必要に合わせコーディネートを行った。

3. あかねが丘学園オンライン環境整備事業

明石市が開設している「高齢者大学校あかねが丘学園」において、密閉、密集、密接のいわゆる3密を回避し、新型コロナウイルス感染を防止するため、ウィズあかしをメイン会場(発信地)とし、13中学校コミセンをサテライト会場(受信地)として、オンライン授業を実施する環境を整備した。

また、オンライン環境を整備したことにより、これまで受講できなかった市民に新たな受講機会を提供するために、あかねカレッジライトコースの企画及び準備を行った。

① 光回線及びLAN整備

ウィズあかし及び各中学校コミセンにおいて、インターネットによる高速通信環境を整備するため、工事実施業者を選定し工事を行った。

② 受講用機材の整備

市内中学校コミセン13ヶ所の各会場において、オンライン配信による受講ができる環境として必要機材を整えた。

③ 撮影及び編集機材の整備

講座動画コンテンツを制作するために必要な動画撮影用として必要機材を整備した。

④ 講座動画コンテンツの制作

あかねが丘学園で開催される講座の動画を作成し、各中学校コミセンでの配信を行った。

【作成した動画コンテンツ内容】

配信日	タイトル	配信方法
11月4日他	地域発信で社会を変える	DVDによるオンデマンド配信
1月12日他	健やかな暮らしのための『食』を考える	DVDによるオンデマンド配信
2月3日他	人前で話すポイントをつかむ	ZOOMによるLIVE配信及びYoutubeによるオンデマンド配信
3月3日他	シニアの装い～若さを保つファッション～	Youtubeによるオンデマンド配信

⑤ 環境構築に伴うアフターフォロー

市内13の中学校コミセンにおいて、オンライン環境を整備するために、各コミセン所長及び職員と信頼関係を構築し情報交換に努めるとともに、適宜アフターフォローを行った。

⑥ オンライン環境を活用した新たな受講方法の企画提案及び環境整備

本業務で整備するオンライン環境を活用した新たな受講方法の企画として「あかねカレッジライトコース」を提案し、その準備及び環境整備を行った。

- ◎企画概要：60歳以上の明石市民であればどなたでも入学することができる、新しい学びの場。
各中学校コミセンで開講される年間300以上の対象講座から好きなものを自由に選択して学ぶことができるコース。

◎企画提案及び環境整備の内容：

- ・ライトコース企画全般
- ・ライトコース募集パンフレットの作成・印刷
- ・「あかねカレッジ」ロゴ作成
- ・データベースの構築
- ・「あかねカレッジ」WEBサイトの作成
- ・学生ファイルの製作



Ⅲ. 市民の主体的な活動支援事業

1. あかし市民広場市民参画交流イベント受託事業

あかし市民広場において、市民の参画及び交流を促進するイベントを実施することで、施設の活性化を図ることを目的として 2020 年度から新たに受託しました。

本事業では、市民広場に市民活動団体をコーディネートするだけでなく、市内各所と市民広場をつなぐ中継を実施したり、オンライン講演会を開催したり、新たな試みにもチャレンジすることができました。特におとなの夜活は、これまで利用の少なかった夜の時間帯の活用方法を提案することができたと考えます。これらは、市民広場の新たな使い方や展開にもつなげることができました。

(1) あかし市民広場全面を利用した 100 名以上の集客が見込まれるイベント

あかし市民広場全面を活用して、季節や流行等も意識した集客イベントを実施した。実施にあたっては、市民活動団体がブース出展する場をつくるなどして、市民があかし市民広場に参画する機会を創造できるよう工夫した。

【実施内容】

開催日	タイトル	内容	参加者数
8月14・15日(金・土)	夏休みこどもイベントうたおい!あそぼう!ファミリーステージ	ぶんちゃか座等によるファミリーステージ	571名
10月25日(日)	みんなであそぼう!こどもハロウィン	市民活動団体による体験ブース	750名
2月6・7日(土・日)	ウィズミーツ	市民活動団体によるパネル展示、コンシェルジュブース等 ※緊急事態宣言発令のため展示のみに変更	158名
3月13日(土)	MIXフェス	市民活動団体の体験ブース、ステージ発表等	661名
3月14日(日)	まちライブラリーフェスタ	磯井氏による講演、市内まちライブラリーの中継等	301名

(2) 「おとなの夜活」の開催

比較的利用の少ない夜間の時間帯を活用して、仕事終わりの勤労者層をターゲットに大人の学びと交流を促すイベントを実施した。講師にはウィズあかしの運営で育ててきた市民講師を活用することで、市民が市民広場に参画する機会を創造した。



【実施内容】

開催日	内容	参加者
9月23日(水)	・心理カウンセラーが考えるお片付け講座ミニ ・ビデオ会議の品質を上げる方法	23名
9月25日(金)	・プロが教える「コミュニケーションスキル」の基本 ・漢字・日本語はおもしろい！-やさしいクイズで楽しく学びましょう-	22名
9月29日(火)	・認知症の方の心をつかむユマニチュード入門	12名
3月2日(火)	・「人生脚本」のかきかえ方～生きづらさの手放し～ ・春の絵本とわらべうた～絵本とわらべうたがつなぐ日々の幸せ～	21名
3月5日(金)	・更年期、心身に負担をかけない暮らし方 ・地域学講座「企業・業界の目から地域を調べる」	26名

2. 明石市環境基本計画市民ワークショップ企画運営事業

明石市環境基本計画の見直しにかかる市民ワークショップの企画・運営事業を明石市環境総務課より受託した。2020年度中に全4回実施予定であったが、1月の緊急事態宣言発令にともない、全4回中2回を2020年度に実施した。ワークショップでは10年後の明石の環境未来像についてのキーワードや取り組むべき内容等を出し、来年度策定予定の明石市環境基本計画見直しの要素(材料)とする予定である。

◎テーマ：明石の環境の未来像を描くワークショップ

◎回数：全4回(うち2回を2020年度に開催、残り2回は2021年度に開催予定)

【各回の内容】

開催日	テーマ	講師/ファシリテーター	参加者数
3月14日(日)	ゲームを通じてSDGsを学ぼう!	NPO法人ふぉーらいふ 矢野良晃 氏	24名
3月21日(日)	最近の環境トレンドについて知ろう	大阪産業大学大学院人間環境学 研究科教授 花田真理子 氏	24名

3. 視察受け入れ、講師派遣等

新型コロナウイルス感染症により、視察受け入れは大幅に減少したが、講師依頼は多数の依頼を受けた。

【視察受け入れ】

受入日	依頼者	受入人数
8月7日(金)	京田辺市	3名

【講師派遣実績】

内容	派遣日	依頼者	テーマ	派遣者
講師	6月4日	朝来市まちづくり部市民協働課	地域づくり研修会「対話を通じて当事者意識を育む」	柏木登起
パネリスト	7月18日 (動画収録日)	労働者福祉中央協議会	2020年度全国研究集会「時代に調和する新しい“つながり”のカタチ」	柏木登起
委員	7月20日 他3回	豊岡市地域コミュニティ振興部コミュニティ政策課	豊岡市地域づくり戦略委員	柏木登起
ファシリテーター	8月6日 8月27日	明石市障害者当事者等団体連絡協議会	ZOOM 会議の方法について	四方かおり
講師	8月6日	丹波市男女共同参画センター	男女共同参画基礎講座「地域における男女共同参画」	柏木登起
講師	9月11日	加西市ふるさと創造課	地域づくり支援セミナー「ふるさと創造会議 活動の可能性」	柏木登起 宮内龍太郎
講師	9月13日	兵庫県ふるさと応援交流センター	関係人口創出・拡大スクール「地域カルテ作成のススメ」	柏木登起
委員	9月18日 他2回	ランドブレイン株式会社	総務省「地域運営組織の形成に及び持続的な運営に関する研究会」	柏木登起
ゲストスピーカー	10月15日	有限責任事業組合まちとしごと総合研究所	関西若手議員の会	宮内龍太郎
講師	11月6日	加西市ふるさと創造課	地域づくり支援セミナー「地域づくりと福祉の連携を考える」	佐伯亮太
講師	11月19日	竜王町教育委員会	人権セミナー「地域づくりと男女共同参画」	柏木登起
コーディネーター	11月26日	佐用町生涯学習課・企画防災課	みん活広報研修「もっと有効な広報活動を行うために…」	佐伯亮太
講師	12月9日	金沢市市民活動サポートセンター運営会議	「多様な住民の参画による地域づくりの秘訣～明石市の事例より～」	柏木登起
講師	1月28日	中国地方知事会中山間地域振興部会	「支援者として『地域主体のまちづくり』を引き出すために～兵庫県内・明石市の事例から～」	柏木登起 宮内龍太郎
パネリスト	2月21日	北九州市立大学	2020年度コミュニティ学会シンポジウム「地域自治組織の可能性」	柏木登起
講師	2月23日	豊岡市地域コミュニティ振興部	とよおか地域づくり大会 2021「多様な人材の参画による地域づくり～関係人口拡大のススメ～」	柏木登起
ゲストスピーカー	2月26日	明石市地域総合支援センター	無理しない地域づくりの学校	四方かおり

パネリスト	2月26日	明石市教育委員会	明石市コミュニティ・スクール推進フォーラム「コミュニティ・スクールをとおして未来への学校づくり＝地域づくり」	木上裕貴
講師 ファシリテーター	3月24日 3月25日	南あわじ市総務企画部 市民協働課	南あわじ市市民交流センター全体研修会 「みんなでつくるまちづくり」を支えるこれからの地域づくり協議会とコーディネーターの役割	柏木登起 宮内龍太郎

<その他の委員派遣> いずれも 2021 年 3 月現在

- ・ 社会福祉法人明育 評議員 永野 潔
- ・ 一般社団法人明石観光協会 理事 柏木登起
- ・ あかし女性応援ねっと 事務局長 柏木登起

法人管理

1. 人員体制 ※2021 年 3 月 31 日現在

【役員体制】

評議員：石井美弥子、川島幸夫、高岸益子、藤本庸文、宮内正次、門前喜康、山本洋子

理事長：永野潔（常勤理事）

常務理事兼事務局長：柏木登起（常勤理事）

理事：澤井康樹、竹内利江、久隆浩、山下孝光

監事：乗鞍良彦、藤田道広

【スタッフ】

事務局員：市出向職員 5 名、プロパー常勤職員 12 名、パート職員 14

2. 会議体

【評議員会】

第 22 回評議員会（6 月 30 日）：2019 年度事業報告（報告）

2019 年度決算承認（議案）

第 23 回評議員会（3 月 23 日）：2021 年度事業計画（報告）

2021 年度予算（報告）

定款の変更について（議案）

【理事会】

第 28 回理事会（6 月 10 日）：2019 年度事業報告、決算報告、各種規程類の改定

第 22 回評議員会の開催等

第 29 回理事会（9 月 24 日）：あかねオンライン環境整備事業受託について、2020 年度補正予算

第 30 回理事会（3 月 12 日）：2021 年度事業計画、2021 年度予算、各種規程の改定等

第 23 回評議員会の開催

【その他の会議】

- ・理事運営会議（年 1 回開催）
- ・ビジョン会議（法人の今後の方向性を考えるリーダー以上のメンバーによる会議）年 3 回
- ・職員全体会（毎月第 1 月曜に開催）
- ・その他各チーム別会議等（随時開催）